

## HW I P企画運営委員会 教務報告

1. HW イノベーション創出論 (1年次後期、必須)
  - ・各種分野の企業や研究所からの講師による講演(後期開講)
2. HW セミナー (1年次、必須)
  - ・HW 合宿：四条畷の研修施設にて実施済み
  - ・研究室ローテーション：7月から11月にかけて実施予定 →希望調査中
3. HW 領域基礎研究 (1年次、必須)
  - ・HW イノベーション入門：Clicによる産学講義と、企業訪問(8/1, 8/8, 9/30)  
→学生希望の企業・英語対応企業・プログラム担当企業に内諾
4. HW 融合領域研究 (2年次、必須)
  - ・アウトリーチ：未来館コミュニケーターによる講義と実践(7/18, 9月, 11月→シンポ)
5. HW 融合領域プロジェクト研究 (3年次、必須)  
HWPI 融合領域プロジェクト研究 (4年次、選択)
  - ・HW 学生主体融合領域研究支援 →二件の研究提案が提出された(審査中)
6. HW イノベーション実践演習 (3年次、選択)
  - ・プログラム参画企業によるOJT(→産学連携報告)
7. HW インターンシップ (3年次、必須)
8. HW 基礎論I・II (1年次、選択)
  - ・特任教員による座学 →毎週実施中
9. 学生アドバイザリ委員会(メンターを兼ねる)
  - ・8月開催(予定)
10. 学生企画 →新規分報告(別紙)
11. その他
  - 懇親会(11名の教員にご参加いただきました。ありがとうございました。)
  - 全国リーディング学生会議(別紙)

## \* 講義の流れ

研究：領域基礎(1年)→融合領域(2年)→プロジェクト研究(3年)→PI研究(4年)

産業：入門(1前)→創出論(1後)→アウトリーチ(2年)→実践演習(3年)・インターン(3年)

## 学生主体企画「出張・西岡塾」～大学院生の今、何をしておくべきか？～

2014年5月24日、大阪大学、希望者のみ参加

産業界から求められるリーダーになるために  
大学院生の今、何をしておくべきか… この解  
を求めて履修生自らコンタクトをとり、研究開  
発の現場から、大企業の経営までを経験された  
西岡郁夫先生(株式会社イノベーション研究所  
代表取締役社長、西岡塾 塾長)を講師に招き、  
特別セミナーを開催した。後半は、学生からの  
質問をもとに自由討論が繰り広げられ、大学院  
生にとって、今行っている研究の経験というも  
のを今後どのように活かしていくべきか、を考  
えさせられるいい機会となった。



**コミュニケーションの重要性を再認識：**西岡先生というビジネスの現場で活躍される方のお話には、普段はあまり考えないような発見があった。そのなかでも、人と人とのコミュニケーションというのはどの世界で生きる上でも重要であるということを再認識させられた。また、西岡先生の経験談からは、自分の信じることに妥協しない姿勢の大切さが伝わってきた。またそれは、ぶれずに自分の考えを信じ続けられるだけの根拠を持つことができたからこそ、成し得たのである。その根拠は、普段から自分が納得するまでとことん考え抜いた結果、持つことができている。私たちも考え抜く癖を身にいつけていきたいと思う。(生命機能研究科・一期生 横田 将志)

**質問は、相手への興味を示すこと：**西岡先生のお話を聞いて、特に印象的だった点は、相手を説得させるために何をすべきかを大切にされている点だった。個人的な反省点としては、もっと質問をしないといけないと感じた。質問は、相手への興味を示すことである上に、議題を深く掘り下げるきっかけにもなるからだ。西岡先生も仰っていたことだが、賢い質問をする必要はないので、今後は躊躇なく聞きたいことを聞く姿勢でいようと思う。HWIP では、異分野の学生や先生方と議論をする場面が多い。先生から頂いたご指摘を参考に、今後のHWIP 学生生活にフィードバックしていきたい。(基礎工学研究科・二期生 富永 登夢)



**講演者を招く企画者として：**企画側の意見として、講演者を招く場合、どこまでテーマを絞った内容を依頼・提案するのか、その判断が難しいと感じた。今回は、講演内容の大枠として「企業と起業」というテーマでいくつかの提案はしたもの、最終的な内容の殆どは西岡先生にお願いする形となった。西岡先生の積極的な姿勢と、話題・経験の多さに救われた部分があるように思う。事前に内容のレジュメ等資料を頂き、企画者らが事前に質問を準備しておけると、議論が活発になると共に理解が深まったかと思う。ただし、依頼する講演者の負担が増えてしまうことが懸念事項ではある。(基礎工学研究科・一期生 浦井 健次)





## 第二回全国リーディング学生会議

### ～「博士の Employability と博士教育と社会との接続」について考える～

2014 年 6 月 21 日～22 日、熊本大学薬学部キャンパス(熊本県)、希望者のみ参加

平成 25 年度の第 1 回全国リーディング学生会議に続き、平成 26 年度もリーディング学生のリーディング学生によるリーディング学生のための会議が開かれ、今回は全国のリーディング大学院から 100 名を超える学生が集結し、日本の博士人材の在り方、特に社会に進出する博士人材における問題について議論を行いました。今年度は、熊本大学・九州大学・長崎大学のリーディング大学院生が協力して開催され、「イノベーション from 九州」と題して、地方ならではの特徴やアイデアを活かしたディスカッションが行われました。



**博士人材の社会進出：**日本は諸外国に比べると学生における大学院生割合が低く、さらなる経済発展には博士過程進学する学生を増加が望まれる一方で、専門分野によっては博士課程終了時に就職が決まっ

ていない者の割合が 30%前後とも報告されており、博士課程修了後の就職は困難であると見られがちで博士過程進学が進まない傾向があります。

また企業によっては、博士号取得者の採用を敬遠する傾向があるということも同時に聞かれます。そこで、博士人材が日本社会で大きく羽ばたくにはどうしていけばよいのか、についてワールドカフェ・講演・パネルディスカッションを通して深く考えていきました。



**多角的に見つめ、考える：**ワールドカフェでは、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、メンバーを組み替えながらオープンに意見交換を行いました。あたかも参加者全員と話し合ったと思えるほどに、多様な考

え方や視点を共有しました。講演・パネルディスカッションでは、文部科学省でリーディングプログラムの考案に携わった喜久里氏から、政府としてのこのプログラムにかかる意図と期待を知り、佐賀県武雄市長として革命的な政策で地方から日本に影響を与え続けている樋渡氏からは、その実践に学ぶイノベーションを起こす心意気を学びました。



**日本、世界をリードする博士に：**最後には各個人の交流をグループに持ち帰り、ぶつけ合い洗練された主張を発表により共有しました。板書形式・記者会見形式など工夫を凝らした発表などもあり、熱のこもった意見が交わされました。さらに、学生だけでなく多数の企業・教育関係者が参加しており、「これからのグローバル社会で、日本をイノベティブにしていけるのは博士人材だ！」という主催者の想いを評価していただき、今後の活動に向けたつながりを多方面に持つことができました。互いに触発され、これからのどのような博士になるのか、高い志を持って活動しようと思わされる濃い 2 日間となりました。

